

路線的破産の 当然の帰結ニスト破り!

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

三月決戦スト報告・その二

 全国の動労組合員のみならず、動労千葉の三里塚
 ジェット燃料暫定貨車輸送延長阻止・三月決戦スト貫徹
 によって、軍事大国化・産報化の強まる中で、国鉄労働
 者―日本労働者階級の闘うべき方向性がはっきりと示さ
 れ、多くの共感をかちとっている状況と、「本部」スト
 破り集団の実態が満天下に突き出されたことを前回の全
 国版・版七九で明らかにしました。今回は、この「本
 部」スト破り集団の路線的破産の実態をさらに鮮明にし
 たいと思います。

動労の闘う伝統を継承する動労千葉

「本部」反動分子の路線的破産は、武操・貨物
 安定宣言から始まる反合方針、三里塚敵対と「本
 部」に始まり、「小谷問題」から「反ファッショ
 統一戦線」に至るセクソ的「謀略」方針等々、こ
 の間、動労千葉と全国の良心的・職闘的動労組合
 員が糾弾した通りですが、この路線的破産の行き
 着く先が労働者のふりをしながら権力・当局の手
 先―合理化の先兵として労働者に暴力的に押しか
 かるというこの間の蛮行に加え、ついにスト破り
 集団にまでなり下るといふことの根底的問題とし
 てあるのです。

今回の動労千葉の三月決戦ストに対し、「本部」
 スト破り集団が唯一言っていることは「目的のな
 いスト―条件も対置しないでストをやることは労働
 者のためにならない」ということです。

これこそ「動労」が労働組合として鉄労以下の
 に墮落してしまったことの歴史的記念碑として胸
 に刻ざみ、糾弾されなければならないことです。

かつて動労が助士廃止反対闘争をたてたか
 た時に、「絶対反対」以外の条件を出したでしょ
 うか。「対案を提起することなしにストライキを
 打つことは誤りだ」という国労の指摘に、「闘う
 動労」は何をもって応えたでしょうか。「政策要
 求対置路線反対」と言ったのではないのでしょうか。
 国労の誤った指摘に闘いをもって応え、闘うこ
 とを通して培った組織力をもって、マル生闘争にお
 いては国労をも闘いの中へまき込んで行ったではない
 か。動労の助士廃止反対闘争を批判した国労でさえ
 マル生闘争においては「無条件でストライキを含
 む闘いを闘い抜いたではないか。」

三月ジェット決戦ストは、前号(全国版版七九)
 で明らかにした通り、八三年改憲・軍事大国化政

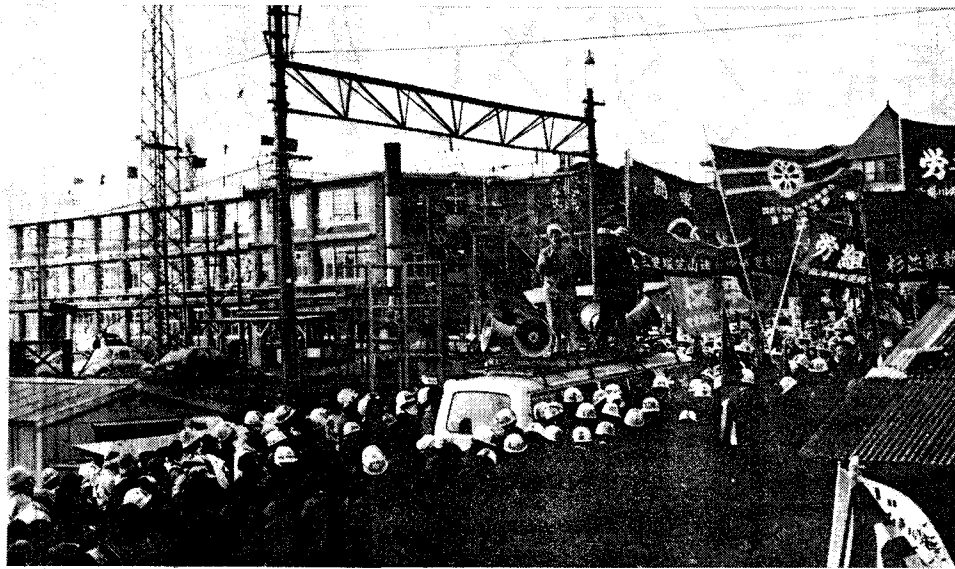


「本部」からストライキを一掃する」
 ために、「
 国労・動労は
 二〇二億問題
 で骨抜きにしたから、動労千葉のように政治スト
 をうつよりな労働組合はタタキつぶせ」という方
 針のもとに権力・当局が臨んできた闘いであり、
 ジェットで動労千葉をツブシ、三里塚闘争を圧殺
 し、日本階級闘争全体を封殺するといふこの攻撃
 に対し、動労千葉が組織の存亡をかけた闘いとし
 てストライキを貫徹することは動労の闘う伝統を
 真に継承するものとして当然です。

何のための全国組織か

動労千葉は、権力・当局がかつてのマル生時と
 同じように警察機動隊・公安官・職制を大量に投
 入し、すきあらば逮捕・職場からの排除という形
 で介入しようとする体制を組んだ中で、敢然とスト
 を貫徹し、闘うことを通して組織を強化してき
 たのです。

この動労千葉に対し、路線的右翼化の故に、組
 合費を湯水のごとく投入しても動労千葉からの落
 ちこぼれ右翼分子・土屋粹以下五十名足らずしか
 組織しえなかった「本部」反動分子は恥も外聞も
 なくかき集めた右翼分子に迎合し、同時に、自ら
 の右翼的体質にマッチしたスト破りの道をヒタ走
 る以外に不才術もなかったと言えます。



3月6日、全国から多くの支援の仲間として反対同盟がスト支援・激励に駆けつけた。

スト拠点・津田沼電車区入口で1500名の勝利の激励・交流の大集会。

全国の動労組合員のみならず！
 多くの先輩が血と汗で築きあげてきた闘う動労の伝統は、革マル分子の暴力支配によって、かくも無残に投げ捨てられてしまったのです。
 かつて助士廃止闘争を果敢に闘い抜いた動労が助士廃止以上に動労組織の根幹にかかわる大合理化―乗務員運用合理化攻撃に対し「地方課題である」として反合同争を放棄してしまっているのです。
 地方ローカル線を多くかかえ、三五万人体制が貫徹されると一九八五年までに職員定数が半減するような地方で、乗務員運用合理化を「地方課題」としてどのように闘えというのでしょうか。
 「何のための全国組織だ。『謀略』と『反ファシズム』だけしかやらない『本部』へ送る組合費なんかもろ払わない」と全国の組合員が、支部・地本役員を突き上げている実態は、当然、起り得べくして起ったことに他なりません。

今こそ、動労大改革へ！

全国の動労組合員のみならず！
 いま動労千葉の職場では、ストライキを貫徹し、動労千葉一三〇〇名労働者が決起すれば首都圏の国電をマヒさせる力があるのだということを示し切り、組織破壊攻撃をはね返した自信と確信の上に立って、八一春闘勝利・国鉄三五万人体制粉砕の闘いに決起してゆく決意に燃えています。
 動労大改革＝戦闘的労働運動の再生へ向けてともに決起しようではありませんか。



1981年3月6日、ピットリとよまに結集する。モチの會一ツクいの野村権助に心ヲアツケる重宝とスト電働の勝利のメダルとコールが流れる。